



佐賀大学
有明海
総合研究
プロジェクト

NEWS LETTER

No.6

Ariake Sea Research
Project

PHONE/FAX: 0952-28-8846
http://www.ariake.civil.saga-u.ac.jp/
ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp



トピックス:

・平成19年度 佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト
成果公開シンポジウムを開催
します

・・・1, 2,

・加藤富民雄先生、
お世話になりました

・・・3

・小林元太先生にきき酒名
人位認定書が贈呈

・・・3

・新メンバー紹介

・・・4

平成19年度 佐賀大学 有明海総合研究プロジェクト 成果公開シンポジウム:

主催

佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト

会場

理工学部 6 号館
都市工学科大講義室 (1F)・多目的セミ
ナー室(2F)

お問い合わせ

佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト
事務局

〒840-8502

佐賀市本庄町 1 番地

電話・FAX 0952-28-8846

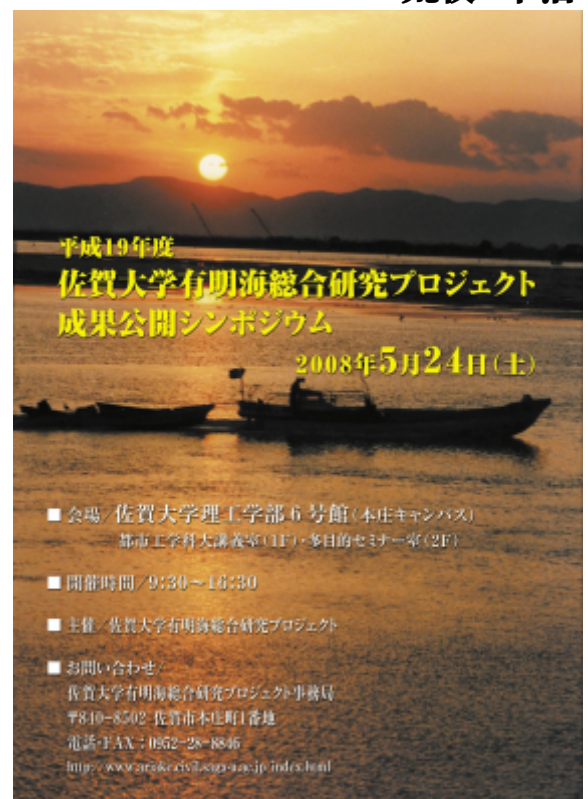
www.ariake.civil.saga-u.ac.jp
ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

平成 19 年度 佐賀大学 有明海総合研究プロジェクト 成果公開シンポジウムを開催します

有明海総合研究プロジェクト プロジェクト長
荒牧 軍治

地元佐賀県の手荒れ生産は生産量、生産額ともに過去5年間好調を維持し続けていますが、一昨年の過去最大規模の貧酸素水塊、及び昨年の大規模なシャトネラ赤潮の発生と続き、有明海は未だに不安定な海況が続いています。有明海に関する大規模研究プロジェクトが次々に終了し、今や佐賀大学の研究プロジェクトに期待が集中しています。これまで3年間、地道な研究成果を積み重ね、多くの機会に成果を発表し続けたことで、今や佐賀大学の有明海総合研究プロジェクトの研究が有明海研究の中核になりつつあると言っても過言ではありません。プロジェクトの一部の教員は、環境省の受託を受けて実施された有明海・八代海調査研究マスタープラン、ロードマップ原案の策定に、忙しい研究の合間を縫って参加し、中核的な役割を果たしました。その作業を通して、有明海の調査研究の現況と進むべき方向性を見極めることができたと思います。今回の成果公開シンポジウムでは、昨年1年間の成果を有明海研究のあるべき方向性の中に位置づけて語られるものと思います。ご期待下さい。

また、微生物学、医学、地域文化、経済の分野を包含した「有明海学」創設に向けた取り組みの成果にも是非ご期待下さい。



成果発表

コア研究 1

・環境物質動態研究部門
 ・干潟底質環境研究部門
 ・環境モデル研究部門

コア研究 1成果発表●環境物質動態研究部門

- ・部門全体の成果概要説明 山本浩一
- ・有明海湾奥部の底質に関する研究
 ―細粒化の解明とモデル化にむけて― 山本浩一
- ・有明海底質からの細胞外ポリマーの抽出とその特性 原田浩幸

●干潟底質環境研究部門

- ・部門全体の成果概要説明 田端正明
- ・有明海沿岸の海水中の鉄濃度分布と海域環境変化 田端正明
- ・2層ボックスモデルによる有明海奥部西岸域の品酸素水発生機構の解析 瀬口昌洋

●環境モデル研究部門

- ・部門全体の成果概要説明 速水祐一
- ・有明海奥部における物質輸送と低次生態系の動態について
 ―プロジェクト5年間の中間報告― 速水祐一
- ・数値シミュレーションによる有明海異変の原因解明に向けて 濱田孝治
- ・GISを用いた筑後川・菊池川・白川・緑川における流出・負荷モデルの構築と
 佐賀東部クリーク地帯における流出負荷量の算定 大串浩一郎

コア研究 2

・微生物相研究部門
 ・食水系感染症研究部門

コア研究 2成果発表●微生物相研究部門

- ・部門全体の成果概要説明 神田康三
- ・海苔スミノリ症病原細菌に感染するバクテリオファージ 神田康三
- ・有明海に生息する乳酸菌の生産するII型制限酵素 加藤富民雄
- ・有明海における微生物相解析 小林元太

●食水系感染症研究部門

- ・部門全体の成果概要説明 中島幹夫
- ・ビブリオ・バルニフィカス感染症対策
 ―臨床医学的アプローチ 第三報― 中島幹夫
- ・ビブリオ・バルニフィカス感染症対策
 ―基礎医学的アプローチ 第三報― 大石浩隆

コア研究 3

・地域文化・経済研究
 部門

コア研究 3成果発表●地域文化・経済研究部門

- ・部門全体の成果概要説明 山下宗利
- ・諫早湾干拓事業の決定過程
 ―アジェンダ・セッティングのズレをめぐって― 檜澤秀木
- ・干潟地域における食と健康にまつわる伝承
 ―伊勢湾および三河湾沿岸における予備調査の報告 藤永豪

加藤富民雄先生、お世話になりました

荒牧軍治 有明海総合研究プロジェクト長

コア2研究部門、微生物相研究部門の部門長を3年間務めていただいた加藤富民雄先生が今年3月に定年で退職されました。現代科学の最先端のテーマである発酵微生物の権威である加藤先生が有明海研究に参加され、部門長まで引き受けて戴いたのは、私にとっては少々驚きでした。微生物を使った海苔のアカグサレ病やスミノリ病に対



抗するバクテリア見つけ出そうとしている所までは何となく理解できたのですが、外部評価で高く評価された有用微生物の発見の話となると、何をどのように探索し、利用しようとしているのか、中学生よりも劣る生物の知識しか持っていない私には正直に言うことができませんでした。しかし、外部評価の先生の話の何うと、どうやら有明海は最後に残された貴重な微生物探索の場のようなのです。もしかしたら、有明海で発見された微生物が新たな産業を生み出すかもしれません。有明海を微生物探索の場にしようとしている若手研究者が先生の跡を継いだようです。成果を期待することにしましょう。

加藤先生、本当にお世話になりました。有り難うございました。

ご退官された
加藤富民雄先生、
お世話になりました



佐賀大学ブランドの特別純米酒『悠々知酔』
悠々と酒を飲みながら、
知の探求に酔う姿

原料は純「佐賀大学産」
・農学部附属資源フィールド科学教育研究センターで
収穫した米「ヒノヒカリ」
・農学部で研究した清酒酵母「協会7号系」

～開発取り組み～
加藤先生研究室グループ

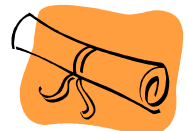
小林元太先生にきき酒名人位認定書が贈呈

福岡国税局が北部九州三県（福岡・佐賀・長崎）の蔵元で造られた清酒（焼酎・地酒）の良さを確認し、地酒の需要振興を目的とする「新酒きき酒会」を毎年開催されています。今年も4/10に38回目が福岡市内で開催され、有明海総合研究プロジェクト・小林元太先生が評価員として参加されました。

招待者ら244人が清酒の吟醸酒・純米酒・本醸造酒・普通酒のタイプ、甘口・中間・辛口の区別、焼酎の原料、計12点の酒をきき当てる問題に挑みました。小林先生は唯一全問正解、名人位に認定され「きき酒名人位認定書」が贈呈されました。



小林先生、
きき酒名人位に



プロジェクトメンバー紹介



プロジェクトメンバー紹介

非常勤研究員 片野 俊也 (コア研究1 環境モデル研究部門)



平成 19 年 4 月 22 日付けで韓国・漢陽大学校、生命科学研究科より環境モデル研究部門・研究機関研究員として着任しました。植物プランクトンの生態学が専門です。韓国・漢陽大学校では、赤潮藻類の細胞周期解析、赤潮藻類に対する殺藻細菌に関する研究等を行いました。佐賀大学有明海総合研究プロジェクトでは、有明海で頻発している赤潮の発生メカニズムの究明を目標として、野外調査および赤潮藻類の培養実験を行っていく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

技能補佐員 吉田 誠 (コア研究1 環境モデル研究部門)

平成 20 年 5 月 1 日付けで技能補佐員として着任いたしました。直前まで在籍していた熊本県立大学では、八代海や有明海南部、その前にいた長崎大学では大村湾や諫早湾と親しんできました。そして今回、本プロジェクトにおいて有明海奥部での調査・研究の一端を担う機会が得られたことをうれしく思います。専門は植物プランクトンの分類と生態です。植物プランクトンが有明海の奥でどのような挙動をするのか見ていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



非常勤研究員 田中 重光 (コア研究2 微生物相研究部門)



平成 20 年 4 月 1 日付けで九州大学大学院生物資源環境科学府より微生物相研究部門・研究機関研究員として着任しました。微生物生態学を専門分野とし、環境試料中の微生物動態を分子生物学的手法により解析しています。有明海泥土中の細菌相変動を解明するとともに、有明海風土病であるビブリオ・バルニフィカス感染症およびスミノリ病に対する微生物学的防除法を確立したいと考えています。農学部や医学部・病院など関係部局の方々のご協力を仰ぎつつ、幅広い研究展開を図り、有明海環境改善に貢献できるよう邁進します。



佐賀大学
有明海
総合研究
プロジェクト

〒840-8502
佐賀県佐賀市本庄町 1 番地

TEL・FAX 0952-28-8846

www.ariake.civil.saga-u.ac.jp
ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp